

福井県高P連会報

特別企画号

発行人 福井県高等学校PTA連合会

(福井県生活学習館「ユニー・アイふくい」内) 齋藤 力



第31回福井県高等学校総合文化祭音楽フェスティバル吹奏楽部門における羽水高校吹奏楽部の発表風景
(11月6日県立音楽堂ハーモニーホールふくい)

今年には参加者を絞り込み、恒例の懇談会も中止するなどコロナ感染防止対策を徹底した中で開催することになりました。

開会式では、初めに齋藤力会長が、「新型コロナウイルスにふりまわされている中、皆様の熱意によってこの研究大会が開催されますことをうれしく思います。今日は立冬であります。四季の締めくくりの季節が始まりますが、年度の締めくくりでもあります。この大会が実り多いものになることを願っております」と挨拶されました。



齋藤力会長挨拶



研究大会の様子

令和二年度の県高P連研究大会が十一月七日(土)午後から、AOS S A「県民ホール」で、百十二名が参加して開催されました。

福井県高P連研究大会

続いて、来賓の県教育庁副部長(高校教育)の油谷泉氏から祝辞をいただきました。



油谷泉県教育庁副部長の祝辞

三点お話しします。まず、コロナのため学校が約三か月臨時休業になりました。学校では感染対応のため、三密回避、消毒、手洗いなどの対応をとっております。来年度から県として学習支援のため県立学校の全生徒にタブレットを貸与することになりました。高校生への貸与については、全国に先駆けての取り組みといえます。

二つ目は高校生の進路実現についてです。就職支援では現時点での内定状況は七割を超えています。進学希望生に対しては、これからが正念場であり、学習の遅れをしっかりと取り戻して、安心して受験できるように支援しています。

三つ目は、県立高校の魅力化についてです。六月に高等学校教育問題協議会から答申が出ました。生徒減少が進んでいる中、各高校は地域の皆さんから行かせたいと思ってもらえる学校にするため、一層の魅力化、特色化に取り組むことが求められている」と話されました。

続いて、県高等学校長協会の松田透氏から祝辞をいただきました。



松田透県高等学校長協会会長の祝辞

家庭での父

研修会の開会式で、齋藤力県高P連会長は、七月に実施予定だった北信越地区研究大会福井大会に向けて会員の皆様の協力のもと着々と準備を進めていた矢先に、コロナ禍のため福井大会



会場風景

県高等学校PTA連合会主催の高P連キャリアガイダンス研修会が令和二年九月十二日(土)午後、福井県生活学習館(ユニー・アイふくい)において五十三名の方々の参加を得て開催されました。今年は新型コロナウイルスの影響で実施できるかどうか心配されましたが、進路対策委員会の皆様と事務局による万全のコロナ感染予防対策のおかげで、参加人数を例年の半分の各校二名ずつに絞ることで実施することができました。心から感謝を申し上げます。

キャリアガイダンス研修会

を中止せざるをえなかったことにお礼を述べられました。その後、全国高P連会長表彰の授与式が行われました。「個人表彰」として武生東高校の滝本俊昭氏、若狭高校の大島洋一氏の二名が、次に「団体表彰」として高志高校と鯖江高校の二校に賞状が授与されました。全国高等学校PTA連合会島根大会が来年度に延期となり大会会場の賞状授与式がなくなった関係で、この研修会の開会式の中で授与式を行いました。受賞された皆様の素晴らしい活動と功績に対して会場内からは大きな拍手が送られました。

続いて講演会が開催され、「時代は変わる ～地方創生に大切なこと～」と



全国高P連会長表彰の受賞者



齋藤力会長

題して、福井新聞社特別論説委員の山下裕己氏が講演されました。ニューノーマル時代、直訳すれば「新しい常態」ということになり、何か大きな変化があり、それまでの普通の状態が普通でなくなり、新しい常識が定着する状態のことを指します。

今年は、突然の新型コロナウイルス感染症の影響により私たちの生活は変わることを余儀なくされました。特に今回のコロナ禍は地球規模のものであり、日本だけでなく世界中でニューノーマルへの転換を迫られているとことです。

講演の中で、今後人と人とのつながりがより深まっていく時代になり、人々の暮らしも都市集中型から地方分散型に変わっていくだろう。地方回帰は今に始まったことではなく、第一次石油ショック(一九七三年)、バブル崩壊(九〇年代) 阪神大地震(九五年) 東日本大震災(二〇一一) など経済・社会不安が高まったときに出現している。

歴史的に見れば、日本人の中央志向は明治期以降強くなってきた。太平洋側を優遇する政策等により地方と中央の格差が拡大したといえる。(明治九年の人口では、一位は東京、二位大阪、三位京都、四位に石川、十二位に富山、二十一位に福井が入っていたとのこと)



講師 山下裕己氏

更に、少子化対策の遅れが地方の弱体化を進めていった。「限界集落」消滅可能性都市」といった言葉が生まれ、「地方創生」という言葉が盛んに使われるようになった。

「木を見る西洋人、森を見る東洋人」という言葉がある。このような時代だからこそ、日本人の価値観の原点である「お互いの関係性や絆を大事にしていこうとする地域コミュニティという考え方」に立ち戻ることが大事ではないか。そこには、ニューノーマル時代に生きるヒントが隠されているように思う。時代の変化の中で、ただヒーローの出現を待っているのではなく、それぞれが自分たちで考え自ら行動していくことが地方創生において大事であると語られました。

大きな時代の変化の中で、我々のPTA活動も自ら考え変化をしていかなければならないのかもしれない。皆さんの気づきをいただいた講演でした。

最後に、田中正志副会長の閉会のあいさつがあり、以上で研修会は終了しました。

(敦賀高校PTA会長 碓望)



閉会の挨拶 田中正志副会長

「一緒に遊ぶ。一緒に共創する非線形の未来」という演題で講演をいただきました。若狭町出身で両親が教員の家庭に育ち、厳しい子育てに反発を感じて高校時代は音楽活動に没頭した。しかし、バンドの音楽に父親が興味を示したことがきっかけとなり、父親と会話をするようになった。

子供たちが今何をしているのかということは、一緒に遊んでみると分かる。子供たちが夢中になっていることを制限するのではなく、直接子供たちに触れてコミュニケーションを持ち、その中で初めてお互いの信頼関係が築



講師 純氏 若杉

慶應義塾大学 特任准教授で、鯖江市JK課の事業にプロデューサーとして関わられた若新雄純氏を講師に招き、

第一部は、高志高校と敦賀高校のPTAからの実践発表です。先ず、高志高校・中学校PTAの岡田乃布彦会長が「進路指導とPTA」というテーマで発表しました。コロナ禍で今年の学校祭に参加できなくなった保護者に学校祭の様子を伝えるために、初めての試みとしてYou Tube中継をしたり、役員が総務委員会とともに「PTA便り 学校祭特別号」を発行したりした取り組みや、毎年恒例の子どもの進路指導に関



高志高校・中学校PTA 岡田乃布彦会長

する保護者の悩み事相談や意見交換等を行う「進路について」の意見交換会」について詳しく報告しました。

また、コロナ禍の状況下で中高生の登校拒否と自殺が全国的に増えているという事実に対して、看過せずにその背景にある様々な問題について今一度家庭でも学校でも考えていく必要があるのではないかと問題提起しました。

次に、敦賀高校PTAの碓望会長が「コロナ禍のPTA活動」というテーマで発表しました。

コロナ禍で取り組んだPTA活動として、今年度の予算に「コロナ対策費」を計上し、

コロナ対策商品が不足する事態が発生することを見越して、速やかにマスクやハンドソープを購入した事例や学校祭支援のために何をするべきかのアンケートをとり、その結果要望の多かったマウスシールドを提供したり学校祭での資料の運搬等を手伝ったりした事例を紹介しました。

また、コロナ禍での経験を基に、「PTA活動は本当に必要なのか」変化を



敦賀高校PTA 碓望会長

嫌い毎年同じようなPTA活動を繰り返してこなかったか」といった「PTAの在り方」そのものに関する問題について考える機会が今なのではないかとの認識のもと、協議を重ねていったという。

その結果、先ず、PTA会計と本来県費で賄うべき会計の区別化を明確にしておく取り組みを始めた(学校振興費会計)の新設。更には、先生方の負担を軽減することにもなる「PTA専属事務局員の採用」にも取り組んできた。これらは今後のPTA活動を考える場合、どの学校でも参考になるものだと感じた。

最後に、事務局からの連絡事項と北村辰一副会長の閉会の挨拶があった。

コロナ禍の中、とても充実した研究大会であった。同じ状況下にあつて様々な形で取り組んでいる単Pの存在に励まされた一日でもあった。

(高志高等学校・中学校PTA会長 岡田乃布彦)



閉会の挨拶 北村辰一副会長

母と子の会話についてのある調査結果を引用され、「父親とは進路、社会の出来事、ニュースについて話し、母親とは学校、友人、将来の進路について話をしているとのこと。子供たちは将来や進路について一番不安を感じているけれども、親に遠慮してなかなか切り出せないでいる。私たち大人は子供に「頑張ってね」と何気なく言っているが、こういう声掛けは子供たちにとってプレッシャーになっている。それに対して、『頑張ってるね!』『頑張ってきたね!』というポジティブアプローチによる声掛けの方が子供たちにとって力になるという。不安定な年ごろの子供にとっては、親子の会話はとても大切なものであります」と話されました。

開会式の後の第一部の講演会では、

現代の社会はもはや直線形に進んでいく時代ではなく、先の予測がつかない非線形の時代であり、未来は未知であるからすぐには答えが出ない。だから、未知を恐れない。未知を制限しない。そして、未知に対して正面から向かい続けることがこれからは大事になる。今までは正解を導き出す教育だったが、これからは分からないことを面白がるのが求められる。絶えず変化していっているの中で、疑問が湧いたらその都度考えながら取り組んでいく姿勢が大事になる。しかし、そのようにしても答えが見つかるかどうかは分からない時代である。

子供たちのことを前もって決めつけず、また、親が分からないから禁止するのでも更には放任するのでもなく、まず興味を持ってみる必要がある。時間も手間も決して惜しんではいけないと語られました。エネルギーに満ちた講演でした。



質疑応答風景



研究大会の様子

ちよと

おじやましくす!

Introduction

武生高校

冬の息吹が間近に感じられる十一月の中旬新型コロナウイルス感染拡大防止のため武生高校に「ちよとおじやま」するのひかえ、PTA会長の谷雅喜さんにメールと電話で取材させていただきました。

同校のPTAには、①総務、②進路、③環境、④研修、⑤広報の五つの部会があり、各部会に十名前後の常任委員が所属します。また、「総会」に相当する代議員会・全員協議会の議決権を持つ代議員には、全クラスから各二名の保護者が出され、役員と親睦の機会（今年度はコロナ禍で難しかった）が持てるよう努めています。行事の前などには担当部会の委員が打ち合わせに集まるのに加え、月一回程度の役員会で、各部会間および学校との連携を図りながら、様々な活動を行っています。

同校は常勤のPTA職員を配置し、関係する事務全般を担う他、校内の購買を運営しています。購買は文房具のほか焼きたてのパンやお弁当の箸を忘れても買えるなど、生徒に親しまれています。

主なPTA活動には、進路資料室の見学会、年三回程度の挨拶・送迎のマナーアップ運動、中学校保護者説明会における現役武高生保護者の眼による学校紹介、「先輩と語ろう会」における様々な分野で



講演後の石田先生を交えての親睦会



石田先生講演後の自署販売

例えば、昨年講演を依頼したのは、期せずして京都の全国大会と同じ石田勝紀先生でした。講演後も本に直筆サインを求める長蛇の列ができたとか。また、PTAで昨今の入試制度改革の説明会を企画したところ、予想をはるかに上回る保護者が来場し、嬉しい悲鳴をあげたそうです。

同校にはまた、秋が深まると撮影に訪れる人がいるほど見事な銀杏並木があり、落ち葉清掃は思いのほか重労働です。これをPTAが担当し、やり終えた時の達成感と爽快感、そして参加者の一体感はまた格



Introduction

福井商業高校

福井市内にあり、部活動が盛んな福井商業高校をご紹介します。今回は、コロナウイルス感染拡大防止のため学校訪問が難しかったため、高橋正博PTA会長さんへのインタビューをさせて頂きました。

同校は、明治四十一年に福井市立福井商業学校として開校し、平成十九年には創立一〇〇周年を迎えました。昭和三十三年に福井商業高等学校と改称しました。生徒数は九三二名。商業科、国際経済科、会計科、情報処理科、流通経済科の五つの学科、各学年八クラスで構成されています。

文武両道を目標に、学習と部活動の両面において全国レベルの輝かしい成果を上げています。炎のチーム福商野球部をはじめ多くの部活がありますが、近年ではチャリダー部JETSが映画やドラマのモデルになり全国的に有名になりました。珠算や簿記、コンピュータなども盛んで大会や検定資格試験で県内トップの好成績を残しています。また、進学率も高く、商業高校ながら約七割が大学などへ進学しています。同窓会「福商会」の活動も活発で、特に毎年開催される福商祭には全国から卒業生が集まり盛大な行事になっています。

PTA活動については、総務、進路研修、健全育成、調査広報の四つの委員会があり、例年五十四名の委員で組織されています。しかし令和二年度はコロナ禍でPTA活動も大きく制約され、事業縮

活躍中の卒業生の紹介、体育祭での熱中症予防協力、十八歳選挙権・成人を目前にした生徒の研修会、保護者の講演・意見交換の研修会、校内の落ち葉清掃、年三回のPTA広報紙発行などがあります。今年度の「先輩と語ろう会」には、先日の県高P連研究大会で司会をした中道詩織アナウンサーもお招きし、リモートながらも生徒からどよめきが始まったそうです。



元常任委員の落語家さんをお招きした親睦会

別だと聞きました。以上は例年の活動の概略ですが、今年度はこのうち半分ほどがコロナ禍で中止となりました。一方で、コロナ対策のため予算に相当額の準備費を計上し、活動の際の感染防止費用に充てたり体育祭時の熱中症予防として冷凍パウチ飲料を配布したりと今年度ゆえの工夫もしています。学校祭も、参観できない保護者のために広報部会が取材に汗を流しました。

小もあって学級委員の選任を見送り二十二名の活動となっています。PTA総会は書面決議で行われ、一学期中のPTA活動の中止もあり、PTA会費四カ月分を徴収しないことになりました。休校期間中であつた五月には、PTA、



PTA運営委員会（前年）

続けているそうです。今回お話を伺っていて、例年通りのPTA活動が出来ない状況に苦心されているPTA会長さんの姿が伝わってきました。生徒のためにと頑張られている皆さんに、アフターコロナに向けたヒントを頂きました。

今年度のPTA活動に対する「文部科学大臣表彰」を福井商業高校PTAが受賞することになったと聞きました。おめでとうございます。

（取材 鯖江高校PTA会長 吉田昌弘）



学校祭手形アート

特別企画

「紙上実践発表会」(第6面、第13面)

今年7月に開催される予定であつた「北信越地区研究大会福井大会」は、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止せざるを得なくなつた。2年前から分科会での発表準備をしてきた4つの単Pにおいては、溜飲が下がらない思いを感じたのではないだろうか。

そこで、県高P連の会報70号の紙面を借りて、特別企画「紙上実践発表会」を開催することにした。本の紙の第6面から始まり、第13面に至るまでの全8面を費やしての掲載となった。

それでは会員の皆様、幻となつた「福井大会」の分科会での実践発表を紙上体験してください。



として生徒たちを支援できないかという観点から、当時入手困難であつた消毒液やマスク



個人用パーティション

等の感染対策備蓄品を購入したり、食事に簡易パーティションを生徒全員分購入したりして学校再開に備えました。

各委員会の活動も中止せざる得ない状況にありましたが、学校祭に向けての支援として臨時の運営委員会を開催し、OBからの激励メッセージを当日流すことに決定しました。多くの候補者の中から、FBC放送の池内社長、ヤクルトス



激励メッセージ池内氏

ワローズの中村選手、前年度生徒会長の名の三名にお願いしたメッセージを学校祭当日にグラウンドの大型ビジョンで流すことが出来、先生や生徒からも好評を得ました。また、保護者が参加できなかったことから当日の映像をDVD編集し有料で配布したそうです。

PTAの今後の課題として、休校が明けたあとも各事業が縮小や中止となり、例年と同じ広報紙の作成が出来ない状況にあるため、作成に向けた話し合いを継

第1分科会 高校教育とPTA

生徒の気持ちに寄り添った
PTA活動を目指して

福井県立三国高等学校PTA 北村辰一会長
坂井市三国町緑ヶ丘2丁目1番3号
生徒数：431名
HPアドレス：http://www.mikuni-h.ed.jp



1. 本校の概要

本校は、福井県の北部に位置する坂井市の丘陵地帯にある学校で、九頭竜川が日本海に注ぎその南側には福井県の大穀倉地帯である広大な坂井平野が広がる豊かな自然環境に包まれています。明治42年に開校された坂井郡立女子実業学校(大正15年に県立三国高等女学校と改称)と大正11年開校の県立三国中学校を前身とし、昭和23年にこの2校が統合されて、県立三国高等学校としてスタートしました。平成30年度には創立110周年の節目を迎え、伝統校としての歩みを着実に進めています。

本校の校歌の歌詞は詩人三好達治の手によるもので、校訓「心高かれ」はこの校歌からとられています。「教育目標」は、「高い志を持って自律的に行動し、地域や社会の発展に貢献できる人を育成する」としています。

地域の人口減少が進む中、本校は地域から求められる人材を育成する学校として、地域課題探究の教育プログラムを地域組織や大学と協働して立ち上げ、総合的な探究の時間を活用し3年間を見通した活動を行っています。



総合的な探究の時間のコマ

このような活動が認められ、昨年度、キャリア教育の充実発展に尽力し顕著な功績が認められた学校に贈られる「令和元年度第13回キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰」をいただきました。また、『『あったらいいね』をカタチにする!〜シビックプライドを持ったコミュニティデザイナーを育てる〜』をタイトルにした研究開発プログラムが、文部科学省「令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に採択されました。三国高校がこれまで自治体等の協力を得て実施してきた地域活性化を考える探究学習を、今後さらに発展的な探究活動につなげるため、本事業では、生徒が地域にある資源に新しい

価値を見だし、新しい発想で、地域人材とともに地域の活性化に協力するプロジェクトの企画・実践に取り組んでいきます。

2. PTA各委員会の役割

毎年、各クラスの保護者から、互選により進路・健全育成・総務の各クラス委員を決定し、それぞれの委員会を構成します。また、各委員会の委員長・副委員長と学校側から校長・教頭・事務長・各校務主任が加わり常任委員会を構成します。

(1)常任委員会

PTA活動の全体運営を行う委員会です。年度初めと夏季休業中、年度終わりの3回、委員会を開催し、主としてPTA活動方針や学校側へのPTAの関わり方の確認、各委員会の予算決定を行います。さらに、一つの委員会の範疇を超える活動のまとめ役も重要な役割としてあり、PTAの情報交換と活動の要とを担っています。

(2)進路委員会

主な行事には、6月に行うPTAを対象とする勉強会を兼ねた「大学・短大入試制度説明会」と、12月に行う「職業探求講座」があります。



職業探求講座のコマ

生徒・保護者が進路決定をする上で有益な情報を提供すべく、委員会と先生方が協力して、行事の企画・運営を行っています。

(3)健全育成委員会

主な活動は三国祭の夜間巡視・補導、学校祭時の夜間巡視・補導、長期休業中の巡視・補導、部活動の激励です。夜の巡視・補導は、坂井市青少年愛護センターの方々と先生と一緒に行きま

す。県内外から多くの人が集まる三国祭の時は、子どもの安全を見守ることを目的に、夜の7時から10時まで2交替で三国町内のかかなりの範囲を巡視します。部活動の激励は、運動部・文化部共に高体連・高文連主催の主な大会の壮行会の時に行っています。また、全国大会出場の場合、学校に掲げる出場者激励の懸垂幕をこの委員会で準備します。

(4)総務委員会

広報紙「PTA通信」を年間2回発行し、保護者・学校・生徒の連携と相互理解を深めるべく活動しています。広報紙は、1回目は保護者・生徒に三国高校について知ってもらうことを目的に、部活動紹介や教職員紹介を中心に掲載しています。そして、2回目は生徒の活躍・活動を知ってもらうことを目的として、部活動成績に加え、修学旅行や学校祭等の行事紹介と3年生の高校生活を振り返るコメント等を掲載しています。

3. PTA活動

今年度(令和2年度)においては、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、活動の変更・中止を余儀なくされた事業が相次ぎました。三国高校でも臨時休業が5月いっぱいまで続き、役員会やPTA総会を書面決議で行うなど、例年通りとはいかないPTA活動の開始となりました。

このような状況の中で、新たな取り組みとして今年度試みた活動が、「学校祭における生徒の製作活動支援事業」でした。これまでの学校祭ではPTA模擬店を行ってきました。生徒が学校祭を楽しむ一助になればと、文化祭で焼きそばやフランクフルトなど食品を販売し、体育祭では熱中症予防も兼ねて冷たい飲み物を販売してきました。毎年生徒から好評を得ていると同時に、PTAの親睦と連携を深めてきた活動ですが、今年度は感染予防の観点から、学校祭当日の外部からの不特定多数の人の出入りを避けるため、PTA模擬店もまた中止の決断をしました。しかし、PTA役員の中から、このような状況下でも何らかの形で生徒および学校の諸活動に協力できないかという声があり、生徒が要望していることでできることはないか考えてみようということになりました。そこで、学校にその旨を伝えるとともに、生徒会執行部とPTA役員の懇談会を設けてもらえるようお願いしたところ理解していただき、懇談会が開催されました。

この懇談会で、教室展示や応援団の衣装・体育祭のデコレーション製作に大量の布を必要としていること、またその布を限られた予算の中ですべて買うことはできないので、提供



学校祭に向けた懇談風景

してくれる染色工場や安く販売してくれる店を生徒・先生方が探していること、布同様に製作に使える廃材や段ボール等の材

料の入手先を探していること、教室展示のアトラクションや体育祭のデコレーションを製作する上で必要な木組み等の技術指導を求めていることなどを生徒達から聞くことができました。懇談会の後、材料収集と技術指導については、PTAの人脈が活かせるところであるので、速やかに臨時常任委員会を開いて情報を共有・整理するとともに、アトラクション製作支援・デコレーション製作支援・衣装製作支援の3グループを組織し、活動の詳細をつめるため、あらためて学校に各製作部門担当の代表生徒と「学校祭 生徒・PTA打ち合わせ会」の開催をお願いしました。開催された打ち合わせ会では、各担当の生徒達からより具体的な要望を聞き取り、それらにできるだけ応えてあげようと活動を始めました。

アトラクション製作・デコレーション製作支援グループでは、各々の知り合いをあたり、地域の工務店で木材を提供していただく段取りをしました。大型運搬車も手配して、生徒・先生と工務店に出向きました。ありがたくも多くの木材を提供していただき、目当ての木材を見定めて運び出す生徒の姿は嬉しげでした。



木材の選定風景

また、製作支援としてPTA役員が貸し出した電動工具の使用については、安全な使い方を指導しました。生徒達の主体性を大事にし、適宜アドバイスをしながら製作を見守りました。衣装製作支援グループでは、生徒が欲しいという色をできるだけそろえようと、SNSを使って知人に呼びかけ、大量の布を集めることができました。生徒達は希望していた種類の布が入手できたようで、衣装づくりの意気も上がったようです。それぞれの作品が完成したことを聞いたときには、協力したPTA役員もまた、生徒同様の達成感を得ることができました。

4. 成果とこれから

新型コロナウイルス感染症対策によって、活動等様々な制限があった学校祭ではありましたが、このピンチをチャンスに変え、生徒の思いや願いをPTAで共有することで、学校・地域と連携しながら学校祭を盛り上げることができました。生徒会執行部との懇談会で、生徒の声をじっくり聴いたことは、今後のPTA活動のあり方について見直すきっかけになったのではないかと思います。今後も、生徒の主体性を大事にし、生徒一人一人の気持ちに寄り添いながら、学校・家庭・地域が一体となってPTA活動に取り組んでいきたいと思っています。

第2分科会 進路指導とPTA

美方高等学校の教育とPTA活動

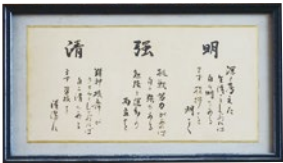
福井県立美方高等学校PTA 田中正志 会長

三方上中郡若狭町気山114-1-1
生徒数：458名
HPアドレス：http://www.mikata-h.ed.jp/



1. 美方高校の概要

福井県は嶺北と嶺南の二地域に区分されるが、本校は嶺南地域の中間に位置し、周りは若狭湾や三方五湖といった風光明媚な自然環境に恵まれている。「明・強・清」の校訓のもと建学の精神「文武両道」を堅持し、教育目標「確かな学力と豊かな心を培い、国際的視野をもち、郷土を愛し、地域社会を担う人材を育成する」ことをめざして努力している。地域の子どもは地域の学校で育てるとの意識が地域住民全体に浸透し、「地元の高校」に対する温かい眼差しを感じる。



全校生徒458名、1学年が普通科3クラス、家庭に関する学科である生活情報科・食物科それぞれ1クラス、計5クラスの中規模校である。普通科では、平成17年度より地元の三方中学校、美浜中学校と、平成27年度からは上中中学校も加わって連携型中高一貫教育を実践している。一方、生活情報科ではファッションと情報を軸に保育・介護についても学ぶことで職業選択の幅を広げており、食物科では県内の公立高校で唯一調理師免許を取得できるなど、それぞれの学科が特徴を打ち出している。特に、生活情報科と食物科は専門性を重視し、資格取得、インターンシップ、外部講師による授業等魅力ある学科として地域の要望に応える努力をしている。

卒業後の進路は、令和元年度卒業生で、普通科[国公立大学11% 私立大学50% 短期大学7% 専門学校(看護含)16% 就職(公務員含)15%]、家庭学科[私立大学5% 短期大学10% 専門学校(看護含)36% 就職(公務員含)49%]となっている。

2. 美方高校の特色

昭和44年に旧三方郡(美浜町及び旧三方町)の地域の方々の熱心な要望によって設立された地域唯一の高校であり、平成30年度に創立50周年を迎えた。開校以来、地元の方々から期待されること大であり、多大なるご支援ご協力をいただいております。「美方高校後援会」という組織が存在する。

敷地は美浜町と若狭町の境界線上に位置し、生徒の約60%は地元若狭町及び美浜町在住者である。現在、嶺南全市町から12の中学校出身者が在籍し、加えて嶺北地区からは9校、県外からは13校の、計34中学校の出身者が集う学校である。様々な価値観や経験を持つ生徒がともに学んでいるが、生徒同士の交流や教師と生徒との交わりは穏やかで平和的である。専門

学科として家庭学科が設置されていることもあり、生徒全体の70%近くを女子が占め、明るく柔らかな雰囲気为学校全体を覆っている。

生徒の人柄は概して善良で、問題行動がきわめて少ないのが現状である。教職員の愛情ある丁寧な指導を受け、生徒は学習・部活動・学校行事に熱心に取り組み、大きな成果を上げている。卒業時点における高校生活への満足度は毎年きわめて高いものとなっている。

本校の最大の長所は、「中規模校の利点を活かした学校全体での生徒サポート」すなわち「生徒一人一人に対するきめ細かな指導」である。授業や部活動、その他の学校生活を通じて生徒と教師とのつながりが強くなっており、お互いの「顔」のよく分かる「距離の近い」関係が進路対策などの個別指導に表れている。



きめ細やかな指導の様子

生徒の通学方法のうち、JR小浜線利用が生徒全体の70%近くに上るため、電車の運行時刻や運行状況に学校の時程や登下校時刻などが大きく影響される。天候不良や野生動物との接触などで運行停止となると、日程変更や休校などを余儀なくされるという点で、不都合が生じることもある。学校の時程を考える際にも、始業・終業時刻の変更は容易にはできない。しかし、生徒の登下校状況の把握が比較的容易であることは利点とも言える。また、保護者の自家用車での送迎も行われているが、生徒玄関前まで自家用車の乗り入れが可能であるのは、福井県内では本校が唯一であろう。降雨時も傘を持たずに登下校する「ドア・ツー・ドア」ができるのである。このことは、単に生徒が安全に登下校できるということだけではなく、電車やバスの便数の少なさを補うという側面も持っている。

3. 部活動の活躍

例年、全校生徒の95%程度が加入する美方高校の部活動は、運動部10部、文化部10部の計20部があり、放課後や休日に様々な活動を行い、県内外はもとよりアジアや世界でも活躍していることは、各種メディアでも報道されている。

競技やコンテストなど活動の成果を競い合う活動はもちろん、地域のイベントや介護施設での催しに積極的に協力するなど、いろいろな場面でその活躍を見せている。

文化部				運動部	
写真	新聞			野球	ボート
吹奏楽	美術			バレーボール	ソフトボール
調理	かるた			テニス	サッカー
放送	合唱			駅伝(陸上長距離)	陸上(短距離)
茶道	書道			剣道	卓球

〈令和元年度の主な活動と成果〉

- ・美方高校総合文化展「LA BELLA PIAZZA」での作品展示・出演(文化部各部)
- ・学校祭「美高祭」での作品展示・出演(文化部各部)
- ・全国高等学校総合文化祭参加(吹奏楽、かるた福井選抜)
- ・近畿高等学校総合文化祭参加(美術、合唱)
- ・北信越高等学校かるた選手権大会出場(かるた福井選抜)
- ・全国高等学校総合体育大会優勝(ボート)
- ・国民体育大会優勝(ボート福井選抜)
- ・アジアジュニア選手権大会日本代表(ボート)
- ・世界ジュニア選手権大会日本代表(ボート)
- ・全国高等学校駅伝競走大会出場(駅伝)
- ・全国高等学校総合体育大会出場(ボート、駅伝、剣道)
- ・都道府県対抗駅伝競走大会出場(駅伝福井選抜)



4. 年間学校行事

〈令和元年度実績〉

- 4月 入学式、始業式、新入生オリエンテーション、遠足、中高一貫連携授業開始
- 5月 PTA役員会・理事会・総会
- 6月 美方高校総合文化展「LA BELLA PIAZZA」、体力テスト、後援会総会
- 7月 「先輩と語る会」、保護者懇談会、終業式、インターンシップ、同窓会総会、学習合宿、夏期課外
- 8月 インターンシップ、オープンスクール、始業式
- 9月 学校祭「美高祭」
- 10月 校内レガッタ
- 11月 大学出張講義
- 12月 沖縄研修旅行、冬期課外、進学宿泊研修会、保護者懇談会、終業式
- 1月 冬期課外、始業式
- 2月 運動部リーダー研修会、PTA役員会・理事会
- 3月 卒業式、生徒会リーダー研修会、生徒会主催行事、終業式、学びの錬成会

5. PTA年間事業

〈令和元年度実績〉

- 4月 PTA入会式、PTA理事選挙、理事選出会議、会計監査、総会準備
- 5月 PTA役員会・理事会・各種委員会・総会、会報「湖声」発行
- 6月 広報委員会、進路委員会、交通マナーアップ指導、二州地区合同レクリエーション大会(4校合同)
- 7月 広報委員会、文化委員会、「先輩と語る会」、保護者懇談会、会報「湖声」発行
- 8月 進路委員会、文化委員会
- 9月 進路委員会、広報委員会、学校祭模擬店『華麗屋』、秋の交通マナーアップ指導
- 10月 進路委員会、広報委員会、PTA進路視察研修会
- 12月 保護者懇談会、会報「湖声」発行
- 2月 PTA役員会・理事会・各種委員会
- 3月 卒業式、会報「湖声」発行

6. PTA活動

本校PTAは、他校と同様に生徒の保護者及び教職員等で構成され、生徒の活動の指導・援助、教育的環境整備、会員の教養向上等を行う組織となっている。

活動は主として役員を中心に行われており、委員会活動が主体である。各委員会の主な活動は次の通り。

【進路委員会】

「先輩と語る会」主として卒業30周年を迎えた先輩方に社会人としての経験などを話してもらう会を、平成14年度より1・2年生対象に毎年行っている。「進路視察研修会」希望者を募り、会員が生徒の進路先候補を視察する研修を毎年実施。行き先は、主に関西や中京、北陸方面の大学や企業である。

【生活委員会】

「交通マナーアップ指導」生活委員会と美方高校教職員が協働して、登下校や列車通学時の安全とマナー向上のための指導を、毎年春と秋の2回行っている。

「通学路危険箇所調査」マナーアップ指導の時期に合わせて全生徒にアンケート用紙を配付し、通学路の危険箇所を保護者から知らせてもらい、生活委員会で検討した後、自治体などに改善についてをお願いをしている。

「親から子へのメッセージ募集」「通学路危険箇所調査」と同時に、同じ用紙に安全な登下校や健全な学校生活のための短いメッセージを募集し、生活委員会できとりまとめた後、全校生徒に知らせている。

【文化委員会】

「美方高校総合文化展『LA BELLA PIAZZA』の広報活動」毎年運動部の春季高校総体開催時時期に合わせて行われる「LA BELLA PIAZZA」の広報ポスター(生徒制作)を地域各方面に配布及び掲示して、宣伝に協力している。「二州地区4校合同レクリエーション大会への参加」文化委員会が中心となって参加を全保護者に呼びかけ、二州地区の4高校(敦賀、敦賀工業、敦賀気比、美方)のPTAが例年合同で催すレクリエーション大会に参加している。

「美高祭PTA模擬店『華麗屋』運営」例年9月上旬に実施される学校祭「美高祭」において、生徒や教職員に対してカレーライスを調理・販売している。文化委員会を中心に多くの保護者が積極的に協力し、数百人分のカレーライスを作る。それを味わう生徒たちの笑顔はとても素晴らしい。



カレーライスの調理風景

【広報委員会】

「PTAだより『湖声』の発行」各学期末及びPTA総会時に発行する、美方高校PTAだより『湖声』の作成を行っている。記事の内容決定から原稿分担、執筆依頼、連絡会議など1年を通して活動が続き、委員会の開催回数も多い。

委員会の活動は以上であるが、それ以外の入学式や卒業式はもちろんのこと、保護者懇談会や学校祭などに積極的に協力・参加しようとする温かい気持ちの保護者が多い。

第3分科会 生徒指導とPTA

科学技術高校PTA活動の取り組み

福井県立福井県立科学技術高等学校PTA 横山信弘会長

福井市下江守町28番地

生徒数：454名

HPアドレス：www.kagakugijutsu-h.ed.jp/

1. 本校の概要

あゆみ

- 明治40年 福井県工業講習所として創立
- 大正4年 福井県立工業学校と改称
- 昭和23年 福井県立福井第二高等学校と改称
- 昭和24年 福井県立藤島高等学校と改称
- 昭和32年 福井県立福井工業高等学校と改称
- 昭和49年 福井県立科学技術高等学校と改称
- 平成19年 創立百周年
- 平成29年 創立百十周年記念植樹

科学技術高校は、福井市中心部より西に位置し明治40年の開校以来113年、福井県の工業高校として地域とともに歩み続け地元では「科技高」という愛称で親しまれている。校章は、水仙の花とScience(科学)・Technology(技術)の頭文字S・Tを配したものである。

本校の特色は、一人ひとりを大切に、きめ細かい指導が受けられるところにある。また、「ものづくり」の学習に力を入れ、それぞれの分野の専門家(スペシャリスト)を育成している。高校卒業後、社会で自分らしく生きるための、知識・技術・人間性の育成に力を入れ、福井の産業・工業界を担う人材を輩出している。

現在は、機械システム科、化学システム科、テキスタイルデザイン科、電子電気科、情報工学科の5学科があり、学科ごとにそれぞれの専門分野の知識や技術を専門教科として学んでいる。作品製作、機器の操作、実験など、体験的に学ぶ「実習」の時間が多いのが特徴。関連した検定や資格習得にも力を入れており、地域企業、学校、公共機関と連携し、学校の外にも学びの場を設け、課題解決型の学習で実践力を身に付けている。

部活動では、13の運動部と10の文化部があり、それぞれが盛んに活動している。なかでも自転車競技部は、2年前に開催された福井国体において天皇杯総合優勝を獲得した時のメンバーの殆どが本校自転車競技部出身であり、福井県のスポーツ界を大きく賑わせた。また、東京オリンピック出場を決定している競輪選手の脇本雄太選手も本校出身者である。文化部では、ロボットコンテスト福井県大会で優勝し、全国大会に出場している。



2. 本校のPTA活動について

(1)PTA組織

本校のPTA役員会組織は、会長1名、副会長6名(校長含む)、会計2名(教職員含む)、監査委員2名と、総務広報委員会、行事委員会、生徒指導委員会の3つ専門委員会それぞれ6名とでPTA役員会を構成し、PTA全体を総括している。また、各クラスから3名以上の選出された実行委員がそれぞれの専門委員会に属し、本校のPTA活動を推進している。

(2)専門委員の活動

総務広報委員会

- PTA広報誌の発行および活動記録の整備・保管
 - 進路指導の協力とその助成
 - その他会員の資質の向上を図るための推進事業
- 行事委員会
- 学校祭等の学校行事への協力
 - 生徒の福祉の増進を図るための事業推進
 - 卒業生用コサージュ作成
 - その他学校行事に関する支援

生徒指導委員会

- 保護者と教職員の合同懇親会開催
- 校外補導の実施
- 学校花壇の整備
- 学校美化事業推進

(3)本校の主な活動

①強歩大会(5月)

中間地点での飲物提供および通過チェックをPTAが担当している。本年度で39回目となる強歩大会であり、本校の一大イベントとして5月に実施されている。20km以上の強歩とあって生徒たちにとっては、なかなか過酷なものである。

また、5月は気温によって水分補給が大変大事な時期でもあり、PTAが行う飲物提供はこの行事にとって大変有意義なものとして位置づけられている。

PTAの会員にとっても、学校での生徒の様子が伺える良い機会であり保護者と学校の連携や保護者同士の連帯が深まる機会となっている。

②交通安全指導(6月)

交通安全月間としてPTAの生徒指導委員会の役員方をはじめその他のPTA役員の方々に参加している。教職員と共に学校周辺の交差点に立ち、登校中の自転車マナー指導を行う。ま

た、生徒たちがしっかりとした挨拶を行う様子は、地域の方々にも好感をもって迎えられている。

③プランターづくり(花壇の植え替え)(9月)

PTAと生徒会との共同作業により、年2回のプランターの花の植え替えを行っている。マリーゴールドやパンジー等の種を採取して、種からの栽培を行い、プランターが設置された生徒玄関は鮮やかな色の花々で飾られている。

植え替え後には、PTAと生徒会での座談会を行い、それぞれの気持ちをぶつけ合っている。生徒が親に求めること、学校に求めること、また、親が子どもに求めることなど本音でトークすることによってお互いの気持ちを理解し合える良い機会となっている。



④PTAバサー(10月)

学校祭においてカレー、やきとり、焼きそば、フランクフルトを調理し、生徒たちの昼食販売に役立てている。PTAの役員が、野菜・お肉・お米・麺類等の材料を調達し、低料金での販売を心掛け、多くの生徒が購入できるように努力している。毎年の恒例行事として位置づけられ、生徒からも高い評価を得ており、PTAバサーを大変心待ちにしている。



バザーの準備風景

⑤コサージュづくり(1月)

3年生の晴れの舞台である卒業式に胸に飾るコサージュを行事委員会並びに3年生の保護者の有志が集まって作成する。3年生の親としては、子どもにできる最後のPTA行事として毎年20名程の保護者が参加している。

⑥PTA広報紙(7月、3月)

「水仙」の発刊を年2回行っている。総務広報委員会より、PTA活動、学校祭をはじめとした学校行事に参加し、写真撮影・編集を委員自らがを行い、科学技術高校の特色が生かされた工夫した新聞を作成している。年間を通して20回の委員会を開き、

それぞれの役員のアイディアあふれた新聞を完成させている。



広報紙の表紙(第79号)

この努力により本校の新聞は福井県高等学校PTA連合会の広報紙コンクールにおいて3年連続の最優秀賞の受賞を受け、福井県高等学校PTA連合会の広報紙コンクールの頂点を極めてきた。

3. 今後のPTAの取り組み

PTA活動の一番のメリットは、活動を通して生徒や先生と交流することで、学校の様子がよくわかることだと思う。そのためにも、教職員と保護者が互いにそれぞれの立場を理解し合える交流の場を多く設定し、信頼関係が築けるような取り組みをしていきたい。

また、保護者の活動を生徒が見ることによって、自分たちの親が学校にかかわっていることを実感し、親への感謝の気持ちを持たせていきたい。

今後もより多くのPTA活動を実施し、学校と家庭を繋げる架け橋として学校教育の支援となるよう努力していきたい。

4. まとめ

PTA活動においては、学校と保護者が同じ体験を共有することでお互いを理解し合うよい機会となっている。保護者にとっては知らなかった学校経営・運営をより深く知ることができ、また学校側としても教職員以外の貴重な意見を聞くことができ、生徒一人ひとりの指導に大いに役立っている。

高校生になると自分の親が学校に来ることを嫌がる生徒も多くいるなかで、本校PTA役員は積極的に且つ協力的に参加している。はじめは、PTA役員となると「大変だ」、「面倒なことはやりたくない」といった気持ちでPTA役員になりたがらなかった保護者も、PTA活動に参加していく中で、役員同士の協調性が生まれ、学校との連帯感がより一層強く築き上げられている。

本校のPTA活動は特別なことはしていないが、PTA活動の場が、「楽しい場」として役員同士が意気投合し、活動全体を盛り上げているように思う。この経験は役員を引き受けてくれたことにより得られたものであり、役員皆が実感していることだと思う。

これからも先生方と連携をはかりながら、「楽しい場」としてのPTA組織を築き上げていきたい。

第4分科会 家庭教育とPTA

家庭の役割を考える

福井県立武生商業高等学校・武生商工高等学校(商業キャンパス)PTA

中谷美枝子会長

越前市家久町24

生徒数：376名

HPアドレス：http://www.takefu-ch.ed.jp/



1. 学校紹介

武生商業高校は昭和40年4月に福井県丹南地域における商業教育の拠点校として、福井商業高校に次いで県下2番目の単独商業高校として開設され、平成26年には創立50周年を迎えた。また、令和2年4月に武生工業高校と統合され、新総合産業高校である武生商工高等学校として新たなスタートを切った。クラス編成は次の通りである。武生商業高校生である2、3年生は、商業科各学年2クラス、情報処理科各学年1クラス、情報ビジネス科各学年1クラス、計各学年3学科4クラスで編成されている。武生商工高校生(商業キャンパス)である1年生は、商業マネジメント科2クラス、情報ビジネス科2クラス、計2学科4クラスで編成されている。卒業生は約11,000人を超え、県下はもとより全国で活躍する優れた人材を輩出している。

本校は、「自分で考え自分を生かそう」「力をつくして困難と取り組もう」「はげまし合いたすけ合っていこう」の三つの教育目標のもと、ビジネススキルとコミュニケーション能力の育成を目指し日々の教育活動に取り組んでいる。

部活動も活発で、運動部ではフェンシング部がインターハイで団体優勝(3回)、全国高等学校選抜大会団体優勝(2回)、国体団体優勝(1回)を誇り、オリンピック選手を延べ5名輩出している。女子バドミントン部は毎年北信越大会やインターハイに出場する強豪である。野球部も今年の県高校野球夏季大会でベスト4に入るなど、多くの部活が近年力をつけている。文化部では、全日本吹奏楽コンクールに6年連続で出場している吹奏楽部をはじめ、商業研究部は過去4年間で4名の全商検定9冠を輩出するなど、素晴らしい成果を上げている。

学校全体としても平成29年1月にはキャリア教育優良学校表彰(文部科学大臣賞)、平成29年5月には学校表彰(全国商業高等学校長協会)を受けるなど、文武両道を志す生徒たちの活気にあふれた学校である。

2. 商業教育

本校の特徴的な学びとして、「武商デパート」がある。販売実習「武商デパート」は、全校生徒が参加して生徒自身が実際にデパート経営を行う実習である。最寄品・買回品・専門品などの生活用品の仕入れから販売・販売促進・棚卸・経理・決算に至る一連の経営活動を行い、これらを通じて商業の知識や技術を学ぶとともに、実際に経営活動を遂行していく能力・態度を養うことを目的としている。また地域の住民との交流の場を提供し、外部の人たちとのふれ合いをとおしてコミュニケーション能力

の向上を図るとともに、「開かれた商業教育」を目指している。一人ひとりがそれぞれの役割を果たすことで、全員でひとつの事をなし遂げたという満足感と自信を持ち、職業人としての行動を自覚し、社会人に必要な心構えと責任を学ぶ。株式会社形態(教職員・生徒が¥1,000出資)をとり、企画・運営など、全ての業務を生徒が中心となっていく。各部課と売り場は、3年生が責任者となり、全学年で運営する。売り場ごとに仕入先を訪問して、取扱商品についての知識や販売方法など、実際の商業活動を学習する。また、経営活動の努力目標を設定し、利益計画を立てて積極的な経営に努める。



武商デパート本店

3. 観光教育の推進

平成28年度より、越前市の商業・観光振興課の方から、「たけふ菊人形」の歴史や来場者数の推移・目標、今年度の取り組みや開催日までの準備などについて学び、知識を深めている。また、越前市の観光資源や「菊人形」の歴史等を学び、「菊人形」で使用する菊について、実際の菊畑で栽培(摘芯)実習を行ったり、出展する菊花や創作飾りなどの栽培・製作過程を理解したりする学習も行っている。適切な広報活動を行えるよう、「たけふ菊人形」に関する学習で得た知識を生かし、「たけふ菊人形」開催期間中(10月～11月)に現地会場にてフィールドワーク(ボランティアガイド実習)を実施している。

4. PTAの活動

PTA役員は会長、副会長、顧問、会計、監査の5つの役職と、教養部、文化部、体育部、社会部の4つの部から組織され活動している。総務部は役員や各部長で構成され、事業の全般的な企画や予算書・決算書作成など、PTA全体の企画・運営を行う。

教養部会では、PTAの広報活動としてPTA会報紙「商魂」を年3回発行している。1学期の主な内容は先生方やPTA役員の紹介、遠足や修学旅行の報告などであり、2学期の主な内容は

学校祭や武商デパートなどの学校行事の紹介である。そして3学期は3年生の卒業を記念して発行しており、卒業式特集のため、卒業生には出来次第郵送している。なお、「商魂」の由来は、校歌の3番の一節「繁栄の明日の日本を商魂の児等ぞ拓かむ」から引用している。

文化部会は、PTA会員の親睦と研修を目的にPTA研修会を企画・実施している。令和元年度は滋賀県へ行き、彦根城を中心として湖東を巡るコースで研修旅行を行った。



昨年度の研修旅行の一コマ

体育部会では主な活動として保護者と教員の懇親を目的にスポーツレクリエーション大会を開催しており、毎年多くの参加者で盛り上がっている。昨年は、令和2年武生工業高校との統合に向けて合同のソフトバレーボール大会を行い親睦を深めた。また、今年度はコロナウイルス感染症拡大防止のためスポーツレクリエーションを中止し、体育祭の動画を撮影し配信する活動に切り替えた。40分の動画を一定期間配信し、約200名の生徒・保護者からアクセスがあった。何か生徒の活動をサポートできることはないか話し合った結果である。

社会部会の活動には主に2つの活動があり、一つ目は越前市補導委員会と連携して生徒の健全育成を目的に行う補導活動である。もう一つの重要な活動は、本校の一大イベントである武商デパートへの参加である。来校いただいたお客様をおもてなしすることで、生徒の活動をよりいっそう盛り上げることを目的に、会場の一角に緑日広場を設けている。ヨーヨーつりやスパーボールすくいなどを出店し、小さな子どもにも楽しんでもらえるよう取り組んでいる。今年度はコロナ禍での武商デパート開催ということで、出店はせずに、文化部と合同で受付や入口での消毒活動を行うことで生徒たちの活動をサポートした。



検温・消毒活動風景

5. 家庭教育とPTA

今回「家庭教育とPTA」というテーマで発表機会を得て、本校における家庭教育の現状を把握したいと考え、「家庭での食

事に関するアンケート」を生徒に実施した。

[アンケート調査結果]

①毎日朝食を食べるか?

→毎日食べる75%、時々食べない20%
ほとんど食べない5%

②食べない理由は?

→食べる時間がないから46%、食欲がないから33%
食べない習慣だから4%、朝食が用意されていないから3%
その他14%

③朝食は誰と食べるか?

→一人で食べる52%、家族の誰かと食べる43%
家族そろって食べる5%

④夕食は誰と食べるか?

→一人で食べる15%、家族の誰かと食べる49%
家族そろって食べる36%

⑤食事の携帯使用は?

→よくする13%、時々する44%、全くしない42%

⑥携帯使用について家族に注意されるか?

→よくされる14%、時々される54%
全くされない32%

[アンケート調査結果から]

まず、朝食を摂らずに登校することがある生徒が25%、一人で朝食を摂る生徒が52%、一人で夕食を摂る生徒が15%と割合が高いことに驚いた。各家庭で様々な事情があるとはいえ、一日のスタートである朝食を抜いたり、一人で食べたりする子どもがなんと多いことかと感じた。昨今の家庭事情や労働事情を考えると、子どもの意思というよりも現代の大人の都合と大きく結びついていると考えられるのではないだろうか。

本来、「家族の団らん」や「命の大切さの実感」、「生活習慣の育成」は家庭が担うべきものであるが、核家族化や生活スタイルの変化によって、家庭の役割についての認識が薄れてきていると思われる。

次に、携帯を使用しながらの食事を注意されない生徒が32%いるという結果に驚きを隠せなかった。おそらく保護者自身が携帯を使用しているのではないかと考えられる。大変残念な結果である。

私は常々、食事をすることは体の栄養だけでなく心の栄養を蓄える時間でもあると考えている。子どもが食べている様子、食欲、会話から子どもの変化に気づけたり、四季の旬や行事、彩りを感じたりすることもできる。家族は、同じ食卓を囲みお互いの顔を見ながら会話をすることで、喜びを共有でき、物の見方や考え方、生活態度など人間として生きていく上で基本的な能力を身に付けていくことができるのだ。

今回のアンケート結果から、様々な意味での食事の大切さを子ども達に伝えることが大人の役目であると改めて感じた。今後、私たち親と子どもがともに「食」の大切さを再認識し、さらには家庭の役割を見つめ直すPTA活動ができるとよいと考えている。

また、昨年度、武生工業高校でも「食」に関してのアンケートを実施している。両校の統合を機にアンケート結果を比較分析し、武生商工高校PTAとしての取り組みに繋げたい。

力を合わせて、 新型コロナウイルスに 打ち勝とう!!

今春、新型コロナウイルス感染対策のため緊急事態宣言が出され、日本中が感染防止のための対応をとることになりました。しかし、コロナは収束する気配を見せず、今、第3波の様相を呈しています。

高校生、保護者にとっては、約3か月の休校や入学式・各種学校行事の中止、夏のインターハイの中止等、高校生活が一瞬に暗転してしまう状況に翻弄される日々を過ごさざるを得ませんでした。

6月には学校が再開され、生徒たちが徐々に日常生活を取り戻していく姿を間近で見、親としてようやくほっとしました。これも先生方の徹底した感染防止の取り組みや授業の遅れを取り戻そうとする熱心な姿勢によるもので、感謝の念で一杯であります。

感染防止については、【資料①】【資料②】を参考にしてください。

1・2年生は言うに及ばず、3年生にとつては、進路決定の大切な時期を迎えております。自分の夢の実現のため、力を出し切ってほしいと願っております。

コロナ収束の気配は一向に見えませんが、だからこそ、学校・家庭が協力して、この困難に打ち勝っていかなくてはならないと思っています。

(足羽高等学校PTA会長 相馬淳也)

インフォメーション

祝 文部科学大臣 表彰決定！

福井商業高校PTAに対して令和2年度「文部科学大臣表彰」の受賞が決定しました。

日ごろから熱心なPTA活動を行い顕著な業績を挙げた団体に対する国からの表彰であります。おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。



令和2年度「PTA活動 に関する調査」の結果を 各学校へメール送信

調査結果をまとめた「二覧表」を八月二十八日付文書とともにメール送信した。この調査は平成二十九年度から実施してきたもので、今年度で四回目となる。調査結果をまとめた「二覧表」からは、各校PTAの活動実態が伝わってくる。特に今回は、「PTAが設置したエアカンの更新については、今後県が更新にかかる費用を持つ」との教育委員会と県高P連との懇談会の席上における知事回答を踏まえて、各校の更新状況に関する項目を調査に加えている。それぞれの学校が今どのような状況にあるか一度に確認できるものとなっている。今後のPTA活動に活用していただきたい。

感染リスクが高まる「5つの場面」

【資料①】

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしで近距離で会話をする中で、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



寒冷な場面における新型コロナ感染防止等のポイント

【資料②】

1. 基本的な感染防止対策の実施

- マスクを着用（ウイルスを移さない）
- 人と人の距離を確保（1mを目安に）
- 「5つの場面」「感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」を参考に
- 3密を避ける、大声を出さない

2. 寒い環境でも換気の実施

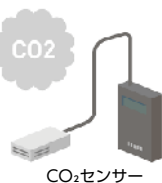
- 機械換気による常時換気を（強制的に換気を行うもので2003年7月以降は住宅にも設置。）
- 機械換気が設置されていない場合は、室温が下がらない範囲で **常時窓開け**（窓を少し開け、室温は18℃以上を目安！）
また、連続した部屋等を用いた2段階の換気やHEPAフィルター付きの空気清浄機の使用も考えられる（例：使用していない部屋の窓を大きく開ける）
- 飲食店等で可能な場合は、CO₂センサーを設置し、二酸化炭素濃度をモニターし、適切な換気により1000ppm以下(*)を維持
* 機械換気の場合。窓開け換気の場合は目安。

3. 適度な保湿（湿度40%以上を目安）

- 換気しながら加湿を（加湿器使用や洗濯物の室内干し）
- こまめな拭き掃除を

「5つの場面」

- 場面①：飲酒を伴う懇親会
- 場面②：大人数や長時間におよぶ飲食
- 場面③：マスクなしでの会話
- 場面④：狭い空間での共同生活
- 場面⑤：居場所の切り替わり



(【資料①】【資料②】の出典については内閣官房HPより)

第一回理事会

九月十二日(土)午前には県生活学習館で開催された。齋藤会長の挨拶の後、県教育長との懇談会や研究大会の持ち方、北信越地区高P連研究大会積立金、福井大会中止に伴う発表予定四校の実践発表集について等を協議した。



第二回理事会

十月二十二日(木)十九時から県生活学習館で開催された。齋藤力県高P連会長の挨拶の後、全国高P連・北信越地区高P連の会議報告、教育長との懇談会の話題と役割分担、令和3年度福井県高P連高校生総合保障制度等について協議した。



県高P連 キャリアガイダンス研修会

九月十二日(土)午後には生活学習館三階映像ホールにて五十三名の参加を得て開催された。齋藤力県高P連会長の挨拶のあと、福井新聞社特別論説委員の山下裕己氏による「時代は変わる、く地方創生に大切なこと」という演題で講演いただきました。(詳細は本文記事参照【第三面】)

北信越地区高P連役員会議

十月十六日(金)に富山市にて「北信越地区高P連役員会議」が開催された。各県から連合会会長と事務局長が出席し、福井県の齋藤力北信越地区高P連会長の挨拶の後、全国及び北信越地区高P連業務の報告や次年度の富山大会の開催

県高P連研究大会

十一月七日(土)午後からAOSA8階県民ホールにて県高P連研究大会が開催された。コロナ感染防止対応として、参加人数を各校4名以内に絞っての開催となった。(マスク着用、入り口での検温・消毒の徹底と会場収容人数の半分以下での開催および懇談会の中止等の対応をした。)

このような状況下にもかかわらず、百十二名の参加を得て熱のこもった大会となった。(詳細は本文記事参照【第一・二面】)

第一回全国高P連 会長・事務局長連絡会

十二月五日(土)午後、コロナ禍のため延期になっていた第一回連絡会が、Zoom

今後の主な行事予定

■教育長との懇談会

(県教委と打合せ中、開催未定)

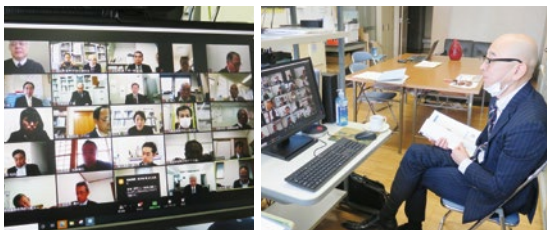
■一月三十日(土)午後

「各校PTA会長・PTA担当者合同会議」を福井県中小企業産業大学校(県生活学習館西隣)にて開催

■四月十日(土)午後

県高P連広報紙コンクール審査会を県生活学習館にて開催(令和2年度の県高P連調査広報委員会の委員により実施)

によるリモートで開催される。全国高P連新会長の挨拶の後、各種行事等の経過報告、来年開催の島根大会の概要、来年度の行事日程案等が審議された。(初めはZoomによる会議に戸惑ったが、後半にはスムーズに対応できたようになった。)



令和2年度県高P連役員

高校生総合保障制度 事故受付状況と保険金請求手続きについて

二〇二〇年も終わりに近づき、高校生総合保障制度につきましても、数多くのご請求やお問い合わせが保護者の皆さまから当事務局へ寄せられております。今回は昨年度の事故受付状況と保険金請求手続きについてご案内いたします。

一、事故受付状況について

二〇一九年四月～二〇二〇年三月までの直近一年間の事故受付状況ですが、事故累計で四三一件お支払い致しました。内訳として、支払い件数が多いのが通院補償一九三件、傷害医療費用補償のお支払いが一三六件となっております。事故の内容で、最も多いのは、例年スポーツ中の事故となっており、次いで自転車運転中の事故となっております。

この保障制度ではご自身のケガ以外に第三者への賠償事故も対象となっておりますが、今年度は六件報告され、お支払いしております。誤って他人の持ち物を壊してしまったり、自転車に乗って自動車を傷つけてしまったり、歩行者や他の自転車と接触し大ケガをさせてしまうケースなどがありました。

最後に、ケガだけでなく病気の入院を補償するプランに加入されている方もいらっしゃると思いますが昨年度は九件のお支払いがございました。**病氣補償プランは補償期間中の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)発病による入院も補償の対象となります。**病氣も含めた補償もお子さまの為に検討頂ければよりご安心かと存じます。

二、保険金の請求手続きについて

ケガ・病氣・賠償事故の場合
下記連絡先0120-3001399(通話料無料)・二四時間受付)まで、お手元に加算者証をご用意の上、ご連絡ください。

○中途加入に関するお問合せ先

高校生総合保障制度事務局
株式会社アイル保険センター

〒910-0003

福井県福井市松本4丁目6番15号

TEL:0776-12313419

(受付時間:9時～17時 日、祝日・年末年始除く)

保護者の皆様へ

2020年度版

福井県高等学校PTA連合会

高校生総合保障制度

ご案内

〔こども総合保険＋自転車総合保険〕

大切なお子さまを補償期間(保険期間)中、**1日24時間補償します**

ただし、一部の補償は24時間補償ではありません。

適用される割引率※

10% 割引

学校の
休みの日でも

病氣補償プランは補償期間中の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)発病による入院も補償の対象となります。

※補償開始前の検診(入学前の健康診断等)で指摘された病氣など補償開始前に発病していた病氣は対象となりません。

※プランによってセットされている補償項目が異なります。詳しい補償内容はパンフレットをご覧ください。

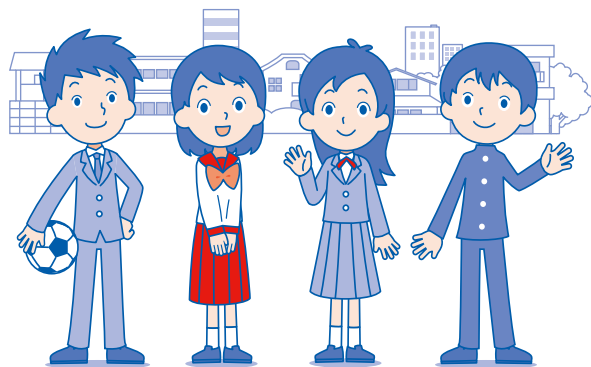
自転車事故等による損害賠償責任も

最高3億円まで補償

示談交渉サービス*付き!

*示談交渉を行う場合は、被保険者および被害者の同意が必要です。国内のみのサービスとなります。

小学5年男子児童の自転車衝突で母親に
約9,520万円の賠償命令(神戸地裁判決)



扶養者の方が事故で万一の際に
育英費用を補償

高校3年間と大学等の合計で、
約953万円の教育費がかかります!

出典:株式会社日本政策金融公庫「教育費負担の実態調査結果」(平成30年度)

簡単支払特急便

スピード対応 お電話一本で手続き完了

ケガによる入院・通院で10万円以下のご請求は、
電話による事故報告のみで保険金をお支払いします。

※割引率について:パンフレットで案内している保険商品の算出基準である保険料(加入者数20名未満の団体における保険料)に対しての割合を示します。適用される割引率は前年度の加入者数、過去の損害率等に応じて決定します。

引受保険会社: AIG損害保険株式会社

S-210096 2021-12